

# 熊本商工会議所・第39回 経営動向調査

## 平成18年3月期 結果報告書

業況DI マイナス31.2 対前期比 マイナス6.8ポイントとなり、やや悪化

～特に飲食業、小売業が大きく悪化～

### 調査結果のポイント

全業種の業況DI値はマイナス31.2で、前回（平成17年12月期）調査と比較するとマイナス6.8ポイントとなり、やや悪化の状況を示した。

前回調査から業況が好転したのは2業種で、サービス業が▲6.8（プラス11.6ポイント）、建設業（土木）が▲9.1（プラス9.1）であった。一方、悪化を示した業種は5業種で、飲食業が▲58.3（マイナス29.7ポイント）、小売業が▲49.1（マイナス18.7ポイント）、製造業が▲44.8（マイナス9.3ポイント）、建設業（職別・設備）が▲12.0（マイナス8.0ポイント）、卸売業が▲33.3（マイナス2.9ポイント）であった。

今回の調査において、全体として業況悪化の業種が多かったが、特にDI値そのものが低調な飲食業、小売業、製造業、卸売業においては、前回調査から更にDI値のマイナスが大きくなり、好転傾向にあった景気動向に陰りが見られる結果となった。

また来期（平成18年4～6月）の業況見通しは、卸売業、小売業、サービス業の3業種において、明るいものとなったが、飲食業については依然として厳しい見方となった。

- ・ 調査対象期間 平成18年1月～3月（平成17年度第4四半期）
- ・ 調査期間 平成18年3月6日（月）～3月10日（金）
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 291事業所
- ・ 回答数 199事業所（回答率68.4%）

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

### 《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	29	78.4
建設業（土木）	21	11	52.4
建設業（職別・設備）	34	25	73.5
卸売業	35	21	60.0
小売業	71	57	80.3
飲食業	23	12	52.2
サービス業	70	44	62.9
合計	291	199	68.4

※ DI値（業況判断指数）について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(12月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価がほぼ横ばいであったものの、販売(受注)・客単価は悪化した。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化した。

〈製造業〉

製造原価が悪化し、販売(受注)単価もやや悪化した。売上高が大きく悪化した。採算(営業利益)は、ほぼ横ばいとなった。

〈建設業(土木)〉

仕入単価が大きく改善したものの、受注単価は僅かに悪化した。売上高が大きく改善したものの、採算(営業利益)は悪化した。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価が大きく改善したものの、受注単価は悪化した。売上高が横ばいで、採算(営業利益)は僅かに改善となった。

〈卸売業〉

仕入単価が僅かに悪化し、売上単価も悪化となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)もやや悪化となった。

〈小売業〉

仕入単価が僅かに悪化し、客単価も悪化となった。売上高が悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈飲食業〉

仕入単価、客単価ともに悪化となった。売上高がかなり大きく悪化し、採算(営業利益)も大きく悪化となった。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)が横ばいながら、客単価は悪化となった。売上高が悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比  
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (18年3月期)	前回調査 (17年12月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 31.2	▲ 24.4	▲ 6.8
	▲ 24.1	▲ 33.2	9.1
製造業	▲ 44.8	▲ 35.5	▲ 9.3
	▲ 44.8	▲ 38.7	▲ 6.1
建設業 (土木)	▲ 9.1	▲ 18.2	9.1
	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 9.1
建設業 (職別・設備)	▲ 12.0	▲ 4.0	▲ 8.0
	▲ 12.0	▲ 13.0	1.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 30.4	▲ 2.9
	▲ 23.8	▲ 30.4	6.6
小売業	▲ 49.1	▲ 30.4	▲ 18.7
	▲ 31.6	▲ 53.6	22.0
飲食業	▲ 58.3	▲ 28.6	▲ 29.7
	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 10.0
サービス業	▲ 6.8	▲ 18.4	11.6
	▲ 2.3	▲ 20.4	18.1

## 来期(18年1~3月期)の業況見通し

全業種における来期(18年4~6月期)の業況見通しDI値は4.9で、17年12月期の前回調査の業況DI値▲15.0と比較すると、プラス19.9ポイントとなり、全体として明るい業況見通しとなった。

業種別で、前回調査と比較して来期の見通しDI値が改善した業種は、卸売業、小売業、サービス業、製造業の4業種であり、なかでも卸売業は前回調査と比較してプラス59.4ポイントとなり、業況好転の見通しとなった。一方、悪化の業種は、建設業(土木)で、DI値▲42.9で前回調査と比較してマイナス32.9ポイントとなり、厳しい業況見通しとなった。また、建設業(職別・設備)、飲食業の2業種については、横ばいの状況であった。業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	今回調査 (18年3月)	前回調査 (17年12月)	今回調査との比較
全業種	4.9	▲15.0	19.9
製造業	▲4.2	▲8.7	4.5
建設業 (土木)	▲42.9	▲10.0	▲32.9
建設業 (職別・設備)	±0.0	±0.0	±0.0
卸売業	27.8	▲31.6	59.4
小売業	2.0	▲27.9	29.9
飲食業	±0.0	±0.0	±0.0
サービス業	17.1	▲10.0	27.1